

巡回監査体制再構築 PJ 主催

関与先指導の現場、 職員研修全体像の解説!

■ 日時 令和3年 8月23日(月) 14:00~17:00

■ 会場 Web / TKC近畿京滋会研修センター

『関与先指導の現場』

講師 寺本 和生 先生

『職員研修全体像の解説』

講師 中西 知行 先生

本日の研修で一番印象に残ったことは、関与先的能力を決めつけてはいけないということです。「小規模な会社は自計化する余裕なんてない」とこちらが勝手に決めつけて、何も教えることもせず記帳代行を引き受けるのは税理士事務所の怠惰であるという言葉が心に刺さりました。

確かに、自計化ができていない関与先へ訪問すると人手が足りないから会計をする余裕がないという方がたくさんいらっしゃる気がします。しかし、だからといって何も教えることもせず、記帳代行を引き受けることは、一見関与先の手助けをしているようにも見受けられますが、実際には関与先の成長を妨げていることにつながることを本日の研修で改めて考えさせられました。

澤田匡央税理士事務所では現在、関与先の自計化を進め、いままで記帳代行に割り振られていた時間を巡回監査や関与先の経営改善に割り振ることを目指しています。しかし、現状はかなり厳しいものだと考えています。なぜなら、いままで記帳代行を行っていた関与先からすれば、顧問料が安くなるわけでもないのに、いままでしなかったこと(帳簿作成)をしなければいけなくなるからです。この課題を解決する為には、関与先に自計化することの必要性、メリットを理解してもらう必要があると考えます。

実際に澤田匡央税理士事務所ですべて自計化ができていない関与先と自計化ができていない関与先の経営者の方を比べると、会計の重要性を理解していて数字を気にする経営者の方と、帳簿をただ単に税金の申告に必要なもの、帳簿なんて気にしていない暇がないと考えている経営者の方に分けられる気がします。この後者の経営者の方に会計の重要性を訴え理解してもらうことが、澤田匡央税理士事務所が前進する為の第一歩だと考えます。

自計化を進めるために大切なことは初期指導だと考えます。初期指導について、本日の研修では、現金管理について学びました。帳簿を金庫の実地残高に合わせることの重要性を関与先に伝え、少額のずれであっても原因を突き止め、指導する。経費かどうか怪しいものは必ず確かめる。不正は解約通知を受ける覚悟で叱る。このような行動の繰り返しにより、関与先との信頼関係を築くことができれば、関与先と税理士事務所のお互いが発展し、地域社会の発展にもつながると考えます。

本日の研修では、私たちが行う巡回監査はとても重要な仕事であり、まだまだ課題が山積みだということを改めて感じました。この山積みの課題を少しでも解決するために、次回以降の研修も一所懸命に臨みます。